府職労 第99回定期大会

●12月21日（土）
９時00分受付（９時30分開会）
～16時50分閉会予定

●マイドームおおさか２階

※詳しくは４面に

府職の友
FUSYOKU NO TOMO

2096号　2019年12月９日

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008　大阪市中央区大手前2-1-59
電話　06（6941）0351・内線3740
直通06（6941）3079 FAX06（6941）4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／小松　康則　編集人／樋口　浩之
（一部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

「パソコン一斉シャットダウン」導入を検討

不払いサービス残業を根絶しよう

「業務の効率化」「意識改革」と合わせて、業務量に見合った職員配置で残業のない働き方を実現しよう！

11月27日、府当局は「時間外勤務縮減に向けた上司・職員のさらなる意識改革を図るため、時間外勤務事前届出がなければパソコンをシャットダウンする仕組み」を導入することを明らかにしました。

いま、職場では「残業減らせ」「働き方改革」の名のもと「残業が申請しづらい」状況が広がっています。府職労の取り組んだアンケート結果（2017年）では約4割の職員が時間外勤務を全て申請していない実態が明らかになりました。

その主な理由（複数回答）は「短時間なので（69・8％）」「自分の責任で残業したので（32・8％）」「申請しづらい雰囲気（13・1％）」「持ち帰り残業をしている（8・5％）」と答えています（グラフ①）。また、時間外勤務の原因について3割以上の職員が「恒常的（4ヶ月以上）に通常業務が勤務時間内に終わらない実態がある」と答え、6割の職員が「時間外勤務を減らすには職員増が必要」と答えています。

残業を減らすには職員増こそ必要

「パソコン一斉シャットダウン」の導入を公表した吉村知事は、記者会見で「残業時間を減らすという定量的な効果だけでなく、職員みなさんが仕事にメリハリをつけ、勤務時間中の集中を一層高める効果もあると考えています」と述べています。時間外勤務を減らすためには、もちろん仕事の効率化や意識改革も必要ですが、これまでの業務量を無視した職員削減を反省し、業務量に応じて職員を増やすことが必要不可欠です。

府職労は「パソコン一斉シャットダウン」の導入が実効性のあるものとなるように、時間外勤務申請の徹底、サービス残業の根絶をめざして取り組みを進めます。

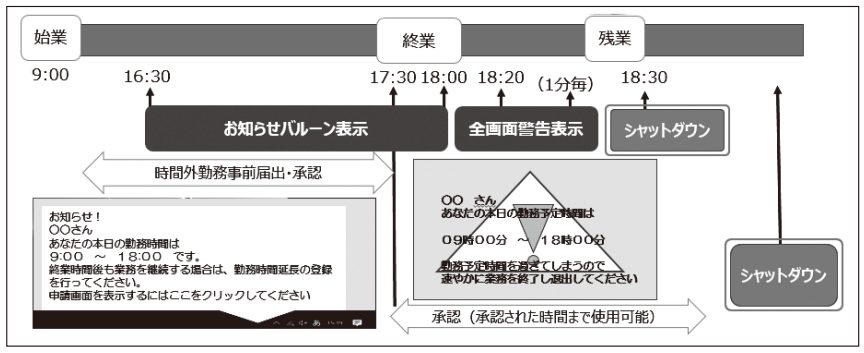
パソコン一斉シャットダウン（案）のイメージ

時間外勤務縮減に向けた上司・職員のさらなる意識改革を図るため、時間外勤務事前届出がなければパソコンをシャットダウンする仕組み

対　象　管理職以外の全職員（府立学校・警察を除く）

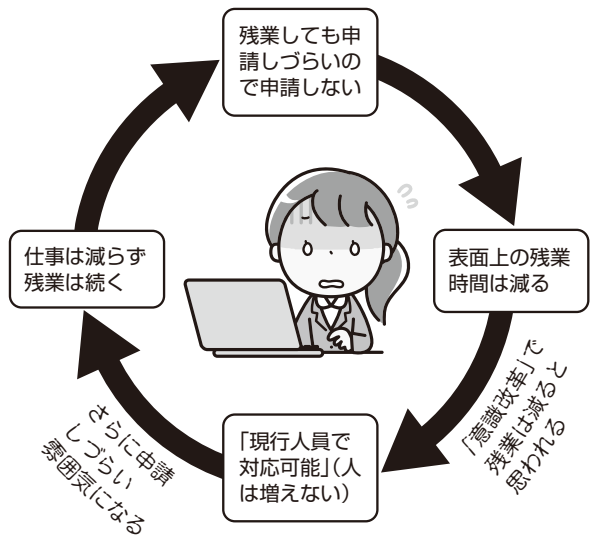
システム
16：30（１時間前）
お知らせバルーン表示（30分間隔）
17：30 又は 18：00 ―（終了）
18：20（20分後）
全画面警告メッセージ表示（１分間隔）
18：30（30分後）パソコンをシャットダウン

《災害時など緊急対応が必要な場合》
システムを停止（解除パスワードで対応）※限られた所属のみ配布



【部長会議（2019年11月27日）資料より】

悪魔の長時間労働サイクル



労働組合の団体交渉の成果

12月26日（木）差額支給

※9月後半議会おいて給与改定にかかる条例（案）が可決された場合

団体交渉で勝ち取った地域手当（０・８％）とボーナス（０・05ヶ月）の引上げが今年4月にさかのぼって実施されるので差額が支給されます！
労働組合が勝ち取った成果はみんなに還元されます！
労働組合に加入しましょう！

遊歩道

ぐっと気温が下がり冬を感じさせる風が吹き始めた。「気が付くと大晦日」といった経験はみなさんにもあるのでは？▼私の住む地域では夜警（夜回り）があり、年末になると「火の用心！マッチ一本火事のもと」の声とともにカチンカチンという拍子木の音が聞こえてくる▼夜警の歴史は江戸時代より古いと言われるが、最近では「寝かしつけた子どもが起きる」「近所迷惑」との声もある。近所同士が互いに声を掛合い注意喚起する年末の風物詩が現代社会に合わなくなりつつあるかもしれない。近所付合いや地域のつながりが薄れ、「顔の見えない」ネット社会が主流になっていくことに寂しさも感じる▼「今日も晩ご飯は一人」「お母さんが仕事の日はお弁当を買って食べるの」という子ども達に近所の人が温かい食事と居場所を提供する子ども食堂が全国に広がっている。日本の子どもの貧困率は上昇し続け7人に1人の子どもが貧困状態に置かれている。年末年始に「虐待」や「孤独死」等のニュースがないことを願うとともに、働く人が地域社会に参加できるよう8時間働けば普通に暮せる社会の実現が必要だと感じる（ち）